

「未来に向かって」

未来の自分。その様に言われても私は何も頭に浮かび上がりはしませんでした。行きたい大学、なりたい職業、全てが曖昧のままこの仙台二高に進学したのです。夢が定まっていなことに焦りなどを感じることは無く、そもそも将来について真剣に考えたことがなかったようにも思えます。しかし、高校に進学した途端自分の進路について向き合わせられる事が非常に多くなりました。そこで初めて自分の無計画な人生に気付かされたのです。私は自分のやりたいことを見つけ、将来について考えたいという思いでこの東京研修に参加しました。

迎えた当日はどのような話を聞くことが出来るのか、どのような人に会うことが出来るのか、私の心の中は期待で満ち溢れていました。東京に着くとまず Misson ARM Japan 代表として、近藤玄大さんの講演を受けました。近藤さんは義手を作っており、世界的に活躍している方でした。その話を聞き、純粹に尊敬の念を抱いた自分なのですが私が知りたいのはやはり動機でした。講演を聞いているとそれは幼少期のからであるとの事でした。これからの選択に今の自分の経験が生かされることも有るのだと感じることが出来ました。また近藤さんの演説の中で「国際交流」という語句が何回か出てきました。実際留学経験もあり、ました。私は留学がとても良い経験になる事は分かりますが、その事実が何となく分かるだけであり、具体的にはよく分かっていませんでした。そこで実際に質問してみました。その結果思いがけない返答が来たのです。「同士に出会える」それを一言目に言い放ったのです。確かになと感じました。自分と同じゴール地点を目指している人と出会えることは客観的に自分のしていることを見つめることが出来るのだと私は解釈しました。留学の良さについて新たな視点からの意見を聞くことが出来て良かったです。

午後からは企業訪問として、私は文化放送を訪れました。現在もアナウンサーとして働いている砂山圭太郎さんという方に企業の見学や、実際にお話も伺うことが出来ました。まず最初に連れてかれた場所は外でした。そこには二人のマイクを持った方と異様なオーラを放つ金髪長髪の芸人さんでした。何が始まるかと思うとライブでラジオ放送が行われていました。芸人さんが歌を歌ったり、モノマネをしたりしていました。面白くて笑いながら眺めていると、急に私の方を向いて「今日は宮城の高校生が来ております。」と言いました。私は驚きを隠しきれないままおどおどしていると、マイクが渡され番組に出場する流れになりました。局にいる方との会話を行いました。

正直振られた瞬間は何を言っているのか分からない状態でしたが、とてもゆっくりとしたテンポと穏やかな雰囲気にも包まれており、仙台について話すことが出来ました。これが

テレビとの違いだと思いました。テレビではあらかじめ用意された原稿そのままに番組が進行される。一方ラジオでは、誰もが気軽に安心して聞くことが出来る雰囲気があると感じました。次に局の中へ案内され、中を見学しました。放送室に入った瞬間外の音が一瞬にして聞こえなくなりました。放送室の中にはテレビが 2 台設置してあり、いつでも外で何が起きているかが何となく分かるようにしてあるそうです。テレビではないため、普段は見えませんが、的確かつ便利な情報を聴者に届けるためいくつもの工夫がありました。

工夫がされてるのは設備だけではありません。砂山圭太郎さんから話し手としての工夫を教えてくださいました。ラジオとテレビで大きく異なるのはやはり映像の有無だと思います。テレビでは画面から映像となって流れるため、無音の状態でも視聴者は楽しむことが出来ます。しかし、ラジオはそれが許されません。音もなければもはや存在そのものが無くなってしまいます。そのため、言葉を繋いでいくことを意識しているそうです。

また、報道業界ではこのような事が言われているそうです。「理解の整理は 0.3 秒、理解を考えるのは 0.45 秒」つまり話した内容を聴者に理解し、考えてもらうには 0.45 秒かかるそうです。よって話し手は次々に原稿を読み上げていくだけでは面白味の無い番組になってしまいます。また、スポーツ番組にも深い技術がありました。例えば野球の試合で序盤で一方のチームが大量得点した場合聴者にとってはその後の展開の興味は薄れてしまいます。しかし、そこで聞くのを止めさせては良い業績は残せません。そこであえて試合の中身には触れず、この先のシーズンをどのようにして戦っていくか、シーズン中のデータを多く話してみたりして、まだ聞きたい。と思わせるようにするそうです。この様にいかにして聴者に面白くて聞く欲をそそらせるかが腕前だということでした。経験と技術がものを言う職業だと感じました。

この日の夜には二高卒の OB の方々からお話を頂きました。東大へ進学された方々と聞き、どのようなお話を聞けるのかという楽しさと、自分とは次元の違う人物だと思っていたため、うまく話すことが出来るのかというような不安がありました。しかし、実際話してみると、とても話しやすく、私の勝手なイメージの東大生とは別物でした。ですが、やはり高校時代の勉強時間などは現在の自分とは比べ物にならないほどしており、自分の学習との向き合い方について反省しました。

2 日目は東大の訪問です。

初めに駒場キャンパスへ向かいました。目の前には大きなキャンパスが立ちほだかり、周囲には多くの木々に囲まれ、最高の雰囲気でした。ここで既に大学での生活に憧れを抱いていました。最初に図書館のような場所へ誘導されました。に入った瞬間どこを見渡しても大量の本があり、驚きを隠せませんでした。それに、それは 3 階あるうちのただの 1 フロアだったのです。読書が好きな私にとっては夢のような場所でありました。小説だけではなく、参考書なども数多くあり、東大生はこの図書館でよく勉強をするそうです。とても良い環境で学習できることに憧れを持ちました。次に「ワークショップ」という題名で

現役東大生と共に進路について真剣に相談しました。自分が考えている道を語り、それについて話し合う内容でした。そこで気がついたことは自分は進路について中途半端にしか考えていなく、東大生のような深く、定まっていないうことでした。多くのアドバイスを経験談などを添えて頂き、本当にためになる時間でした。また、同じ二高生の進路についての考え方についても聞くことができたのは収穫だと思います。本郷キャンパスでは模擬授業を体験しました。法律の授業であり、受ける前はとてもワクワクしていました。しかし、実際授業を受けてみると繰り出される難関な言語と内容についていけず、気づいたらその授業は終わりを迎えてました。そこで大学の実授業の難しさを十分に実感しました。話している内容をほぼ理解できない体験は初めてでした。

今回の研修において、前記したように私は将来について考えるというテーマで臨みました。多くの立場の人からそれぞれの経験を聞き、道は沢山あるということに気が付きました。また、文化放送を訪れ、仕事内容や施設内を見学することによって報道関係の職業により興味を持つことができました。まだ決まった訳ではありませんが、将来を考えるにおいてとても大きな訪問であったと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。また、この 2 日間で数多くの東大生のお話を頂きました。日本のトップの大学の生徒はやはり自分とは異なった考え方を持っており、非常に参考になりました。しかし、気づいたことは学校生活は大して変わらないということです。多くの人が運動部で一生懸命部活を頑張り、学校行事を楽しんだと言っていました。そこで思ったことは日頃の学習が最も大切だということです。私もサボらず勉強時間を設けていきたいです。自分の将来の可能性を拡大するためにもまずは今の勉強を全力ですることが今出来る事だと感じました。